

平成24年度第2回北上市政策評価委員会会議録（要旨）

【出資法人等協働評価専門部会】

日 時	平成24年 8 月 2 日（木）午後 1 時～ 4 時50分
場 所	北上市文化交流センター「さくらホール」他
出席者	(1)委員 5名 山田晴義部会長、青木一郎委員、小野寺純治委員、宗和暢之委員、谷藤邦基委員 (2)事務局 (3)担当部課職員 (4)出資法人等役職員
傍聴者	なし

1 議題

- (1) 評価対象3法人の管理施設の視察
- (2) 出資法人等ヒアリング

	対象案件	視察施設
1	芸術文化の振興について 財団法人北上市文化創造	北上市文化交流センター「さくらホール」
2	スポーツの振興について 財団法人北上市体育協会	北上総合運動公園内「北上陸上競技場」
3	地域づくりの推進について 財団法人北上市自治振興公社	ふるさと体験館「北上」

2 会議の概要及び主な意見等

各施設を視察し、現地で法人ヒアリングを実施した。時間の都合により、一部は質問事項のみを提示し、次回までに回答を準備することとした。

(1) (財)北上市文化創造

[主な意見等]

- ・指定管理者制度の導入前と導入後で、経営状況やサービスの面で比較してよくなった部分があるかどうか。

→指定管理者制度導入の前後比較について、違いはそれほどない。

- ・組織として法人の課題をひとつあげるとすれば何か。

→施設の老朽化とこれに対する市の財政状況の関係となる。本来この施設は公の施設なので、私たちは直接手を加えることができない。本当は設備等を替えなければならない時期にあるが、市の財政状況からなかなか替えられないというものが、そろそろ出てきつつある。

・年間10名ほど自己啓発研修をしているが、どのような人材育成を考えて研修をやっているか。

→こういうホール関係の実物を見て来るということをやって、文化芸術に関わってのスキルを上げるようにとしている。職場研修はまだ少し足りていない、課題と考えている。

・NPO法人芸術工房などの団体との関係は、連携もあるし競合もあると思うが、どのように考えているか。

→競合ではなくて、連携していただいている。こちらで催し物をやるときのサポートをしていただいているが多い。さくらホールのイルミネーションはNPOさんが独自にやられている。

## (2) (財)北上市体育協会

[主な意見等]

・国民体育大会の開催という、目の前を見るといいことがあるゆえに、大きな経営課題への対応が逆に遅れがちになっているのではないかという気もする。ぜひ短期、中期、長期と視点を3つに分けて、経営面を含めての課題をリストアップしていただきたい。長期だとあまり楽観的には感じていないので、こういう外部の委員会を使って課題を整理していただいたらいいかと思う。

・できるだけ多くの子供たちが施設を利用して、将来的にスター選手が出たらいいと思うし、北上市はスポーツ熱心なところだと言われるようになるのは理想だと思う。そういうことを目指していくことでいいと思うが、この施設の老朽化の問題などいろんな課題を出してもらいたい。私たちは報告書を市に出す立場なので、課題を先延ばしにするのではなくて、それに早く対応できるよう、スポーツの振興に少しでも役立つようなことも考えてみたい。

・総合型スポーツクラブとの機能分担について、協会としての考えはどうか。

→総合型スポーツクラブについては体育協会が育成指導という立場ではなく、行政のほうでやってきたもの。我々から指定管理を引き継いで施設管理をしているところもあるが、私たちとしては今まで管理してきたノウハウがあるので、経費的に安ければいいというだけの管理はしてほしくない。そこはお互い競って有効な管理をしていきたい。私たちは各地区に体育協会の加盟団体を持っているので、そこを通じてスポーツ振興をしていくのもひとつの手段であると考えている。

・体育協会の目標が、必ずしもトップアスリートを育てるということではなくて底辺を広げていきたいということならば、第1種競技場を維持することとの関係はどうか。

→第1種競技場を維持することによって、大きな大会とかトップアスリートが

来る。そういうものを見て、ああなりたいとか見習いたいとか、陸上や他のスポーツをやる動機付けにつながっていくものと考えている。

・子供たちへの指導者は協会の職員にいいのか、それとも加盟している団体から派遣してもらっているのか。

→小さな子供たちに対して走りの基本や体の動かし方を教えることができる職員はいる。競技技術が高くなってきた子供たちには、それぞれの競技団体で監督やコーチがいるので、そこは場所の提供ということになる。

### (3) (財) 北上市自治振興公社

[主な意見等]

・市民への情報公開をどのようにしているか、その現状は。

→情報公開については、新法人になると義務付けられてくるので掲示板にすべて掲示する。これまでホームページに決算・予算を出していたが、ここ1～2年は更新ができていない。そこは不足しているところだと思う。

・自治振興を表に出してやっていこうということだが、25年間やってきて業務もどんどん変わってきていると思う。自分たちのやっている業務を一度整理したほうがわかりやすいのではないか。

→新法人に移行するため、新しい定款を吟味した。これからこの財団がどういう方向に向かうべきかと議論した時に、いまの寄附行為とはけっこう違ってきている。

・事業の中に調査事業があるが、一般財団法人になった時にこの調査事業をやっていくかどうか。

→旧和賀町当時に自治意識の調査などをしようということで、2回くらいはやったことがあるが、今ではやっていない。

・この施設の設定目的は都市との交流ということで、事業の受益者は都市住民だろうと思うが、それは北上市の住民がターゲットなのか、それ以外の方々なのか。

→仙台や東京とか首都圏の子どもたちを呼んで、田植えや稲刈り体験をさせようという趣旨で作られたのかと思うが、当初はそういった事業を市のほうでやっていたが、年数がたって具体的な取り組みが少なくなっている。公社としては、むしろ市民に税金の還元をするべきではないかということで、市内の子供たちにこの体験館を夏休み・冬休みに利用していただきたいと考えている。

・設立目的に自治振興の推進とあって、これはコミュニティの活性化であるとか地域の活性化がテーマになるかと思うが、今後どのようにしようと考えているか。

→地域振興といった部分ではパークゴルフ場。市民の健康増進と市民の交流の輪を広げていこうと、あとはこのふるさと体験館の利用増進につながればとい

うことでやっている。

・せっかく自治振興公社という名前をつけているので、単なる委託だけではなく利用料金制などの発想で、もっと自主的に取り組んでいくという考え方があってもいいと思う。北上市和賀町の発展のための核になるんだという意識で、たとえば料金も条例に縛られているということではなくて、自分たちが使いやすいように変えていくという発想を持ってもいいのではないか。

・今回ちょうど新しい定款ができたところで、委員としても定款が変わった段階でこうあるべきだと出すことにタイミングとしてどうなのかなと思うところがある。定款にあげられている項目については、おそらく一から始めるものではなくて、過去にもやってきたことを定款にはっきりさせたというケースが多いと思うので、その事業の実績を見て、本当にそれが将来伸びていくのか、可能性があるのかということを見てみたい。